

○ 創作の指導に当たって、即興的に表現することをどのように位置付ければよいのか。

1 創作指導の指導内容について

「言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して旋律をつくること」（事項ア），「音素材の特徴を生かし，反復，変化，対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」（事項イ）のように示した。

「内容の取扱いと指導上の配慮事項」に，生徒が即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど，音を音楽へと構成する体験を重視することを以下のように示した。

創作の指導については，即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど，音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際，理論に偏らないようにするとともに，必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。

この配慮事項は，事項ア，イのいずれの指導においても特に重視する必要がある。

2 指導における留意点について

理論的な学習を先行させ過ぎたり，はじめからまとまりのある音楽をつくることを期待したりするのではなく，例えば，生徒が自由に音を鳴らしながら音の質感を感じ取り，長さ，高さ，強さ，音色などを意識して，音と音とを連ねたり組み合わせたりするような創造的な活動にすることが大切である。

3 各学年における指導事項

学 年	指 導 事 項
第 1 学 年	第1学年の創作の活動では，〔共通事項〕との関連を図りながら，言葉や音階などの特徴を感じ取り表現を工夫して簡単な旋律をつくる能力，音素材の特徴を感じ取り反復，変化，対照などの構成を工夫しながら音楽をつくる能力を育てていくこと。
第2学年及び第3学年	第2学年及び第3学年の創作の活動では，〔共通事項〕との関連を図りながら，言葉や音階などの特徴を生かし表現を工夫して旋律をつくる能力，音素材の特徴を生かし反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を高めていくこと。